



■リーダーズ・ナウ —5
在学生— 外国語学部3年次生
有吉 俊さん
卒業生— 株式会社リクルート 進学カンパニー
広報企画統括部 専門学校広報推進部
企画開発グループ マーケティングディレクター
村田 陽一さん

■研究最前線
キャリア教育・支援の実践と研究
キャリア教育の効果を測定・評価する —7
社会学部 — 川崎 友嗣 教授
アクティブスクリーンプラズマ窒化処理の研究
硬化層を均一に形成する新プラズマ窒化技術 —9
化学生命工学部 化学・物質工学科 — 西本 明生 准教授

■トピックス [学内情報] —11
関西大学のキャリア形成・就職活動支援体制
次代を担う若者を全面的にバックアップ！
昭和基地からライブで「南極授業」
関大一中・東野教諭が南極の驚異と魅力を伝える

■社会貢献・連携事業 / 地域連携 —13
高槻ミューズ・堺キャンパスで「関大防災DAY2011」
巨大地震に伴う火災、津波も想定して避難訓練
～広がれ！みんなの安全・安心～

「大阪マロン共同調査研究」
杉本厚夫・人間健康学部教授らが調査・分析
「なぜ市民マロンか？」人気を裏づけ、意義と効果を検証する

■関大ニュース —15
関西大学南千里国際プラザが竣工 ほか

■対談
勝間 和代
楠見 晴重

経済評論家 / 中央大学大学院戦略経営研究科客員教授
学長

ワーク・ライフ・バランスの充実度
仕事の無駄を省いて生産性を高め、自分の生活や将来に投資しよう

KATSUMI KAZUYO

■対談



ワーク・ライフ・バランスの充実度

仕事の無駄を省いて生産性を高め、自分の生活や将来に投資しよう

●勝間 和代 ●経済評論家／中央大学大学院戦略経営研究科客員教授

●楠見 晴重 ●学長

経済評論家の勝間和代さんはマスメディアで活躍するとともに、勝間塾を主宰し、インターネットでも情報や意見を発信している。その発言は、キャリアや就職を考えるうえで示唆に富んでいる。これから社会に出て仕事をしていくのに、大切なことは何か。

Work-life
Balance

◆中学・高校時代は運動とプログラミングに夢中

楠見 勝間和代先生には、昨年10月に本学社会学部が千里山キャンパスで開催した学術講演会の講師を務めていただきました。今号の「Reed」はキャリア教育と就職をテーマにしておりますので、ぜひお話を伺いたく、ここ関西大学東京センターにお越し願いました。

まず、ご自身のキャリア形成についてお聞かせください。公認会計士の2次試験に19歳という最年少で合格し、在学中から会計士補として仕事をされたそうですが、大学と専門学校、いわゆるダブルスクールで学ばれたのですか。

勝間 公認会計士の旧試験制度では、当時の最年少記録です。大学入学後1年間ほどで試験に受かってしまったので、ダブルスクールの期間はそんなに長くはなかったのです。スカッシュサークルに入っていて、ラケットを担いで専門学校まで通いながら、授業中にうとうと眠ってしまうことも多かったですね(笑)。

私は中学・高校時代から運動部に入っていました。中学ではフェンシング部、高校では馬術部と卓球部に所属していました。そして、昼間はほとんど寝ていました(笑)。どうしてかというと、夜中にパソコンで遊び、プログラミングに夢中でしたから。文化祭になると、出し物の脚本を書いたり監督をやったりもしました。

中学から慶應の附属(慶應義塾中等部)に入ったので、通常は大学まで進めますから、勉強であくせくするよりもクラブ活動や自分の趣味みたいなことに熱中できたのです。

楠見 それにしても、最年少で公認会計士試験に合格！何か勉強の秘訣があったのですか。

勝間 大学に入学したときは、さすがに少しは勉強しようかと(笑)。勉強するにもやはり目標が必要だと思って、いろんな資格試験について分析したところ、公認会計士試験が資格取得に要する勉強時間が少なくすむことが分かりました。そこで、在学中に合格した人を探して訪問し、勉強法などのアドバイスを受けました。

私は元来、無駄な努力をすることが嫌いで、努力をするんだったら正しい努力をする方法を学んでおこうと考えます。例えば、卓球部に入るとまず卓球の指導書を5〜6冊買ってきて、ざっと読んでから良い道具を用意して、そこから始めます。

◆論理的思考能力と総合的な知識が大事

勝間 私は高校時代に、実は物理学者になりたかったのです。物理や数学が好き、要するに計算が好きでした。高校レベルの物理や数学はロジックと公式さえ覚えていれば、あとは計算するだけで、勉強時間が圧倒的に少なくいい。歴史など他の科目のように、たくさん記憶する必要はありません。

でも、物理学者になる夢は、姉たちに反対されて破れてしまいました。たまたま数学が得意な自分を生かせる道として、公認会計士の職業しか思い浮かばなかったのです。その試験も、簿記や原価計算などの計算科目の成績が良くて受かったと思っ

ています。

楠見 結果的に、商学部に入り、公認会計士になり、経済評論家になられた。その分野では、数学が好きで論理的思考に優れていることが大事だと思います。実際、文系の学生の中には論理的思考能力に弱い場合があり、逆に理系では歴史や社会のことを勉強していない人が多い。本来はもっとバランスよく学んでいかないといけないのですが、それは我々科学者・研究者にも言えることです。現実には福島原発事故への対応を見ていると、総合的知識というか、あまりにも専門が分化され、全体を見る能力、違う視点からの見方が欠けていたのではないかと気がします。

勝間 やはり災害は起こるものだという前提で、日本の社会システムを組み立てなければいけないということが、最も大きな教訓だったと思います。日本は四季折々の美があって、自然環境に恵まれているのですが、それはすなわち災害が非常に多いことですね。そのリスクに応じたシナリオづくりをしていかねばなりません。

例えば、巨大な堤防を築くのがよいのか、避難訓練に力を入れたほうがよいのかという、ハードウェアとソフトウェアのバランスの問題です。私は被災地で、小さいころにおじいちゃん、おばあちゃんから昔話で津波の恐ろしさを聞かされていたことが津波教育になっていたという話を聞きました。

原発事故に関しては、何よりも健康に被害が及ぶ範囲かどうかという科学的な知識のほうを重視したいと思っています。

◆人気企業よりも、これから伸びる会社を選ぶ

楠見 関西大学ではキャリアセンターおよび各学部・研究科を中心に、学生に対するさまざまな就職支援を行っています。それとともに、教育の面でも、キャリアにつながる授業を拡充しているところです。文系の学生にも数学的な素養や数理解理的なスキルは要るだろうし、理系の学生にも人文・社会科学的な科目がもっと必要です。

例えば、ネットからの情報だけに頼るのではなく、新聞をはじめとする幅広い情報を得て物事を判断する力を身につけてほしい。今の学生は新聞を読む習慣がないものから、「新聞を読む」という科目を設けました。

さて、学生が就職先を選ぶにあたって、重要な点は何でしょうか。

勝間 私はよく学生さんに、「人気企業に行くな」という話をします。どうしても人気企業に殺到するのですが、人気企業というのはピークがもう過ぎた企業なのです。そこに今から新入社員で行くのは、戦略的には全く正しくないですね。今人気だということは、過去においてピークがあったことの裏返しです。しかも、優秀な人がたくさん集まりますから過当競争になります。人気企業よりも、これから伸びてくる会社を自分の目で見分けることが大事なのです。

楠見 おっしゃる通りで、将来伸びるような会社を選ぶことがポイントになると思います。我々もそのような情報を学生たちに伝える努力をしないとイケません。

■対談

Work-life Balance

勝間 まず、自分の足で歩くことです。できればアルバイトをすればいい。働いてみるのがいちばん確実です。何社か働けば、それが良い企業か悪い企業か分かります。それが無理なら、先輩に話を聞けばいい。何のために先輩がいるのですか。大企業ではないところへ行った先輩の話聞けばいいじゃないですか。現に私が公認会計士試験に受かったのは、在学中に合格した先輩の話聞きに行ったからです。

キャリア教育のときに、「伸びる会社の見抜き方」みたいな教育も必要でしょうね。マクロトレンドでいえば、今だったらアジア中心に海外進出を図っている企業以外に選択肢はないくらいです。それなのに、なぜ国内企業のほうに行ってしまうのが非常に不思議なのです。自分自身がいつでも中国、インド、ベトナムなどに行くつもりで就職企業を選んでほしいですね。

楠見 全くその通りです。しかし、これは関西大学に限らず、海外志向、留学志向の学生が少なくなっているのです。

勝間 逆なんですよ。今こそ留学しなければいけないのに。



勝間 和代 (かつま かずよ)
1968年東京都生まれ。慶應義塾大学商学部卒業、早稲田大学大学院ファイナンス研究科修了。19歳で会計士補の資格を取得、大学在学中から監査法人に勤務。アサー・アンダーセン、マッキンゼー、JPモルガン証券を経て独立。現在、経済評論家、株式会社監査と分析取締役、中央大学大学院戦略経営研究科(ビジネススクール)客員教授、内閣府男女共同参画会議議員。2005年ウォール・ストリート・ジャーナル「世界の最も注目すべき女性50人」に選出。06年エイボン女性大賞受賞。09年世界経済フォーラム(ダボス会議) Young Global Leadersに選出。「勝間和代の日本を変えよう」「断る力」など多数の著書があり、累計発行部数は430万部を超える。

◆マニュアルに頼らず、自分の体験で勝負しよう

楠見 私は1年生に対する講義の中で、大学4年間に短期でもいいから必ず海外へ行きなさいという話をしています。ただ、3年次から就職活動をしなればいけないので、3年次の夏休みごろになると就職のことで頭がいっぱいになって、どうしても海外志向になれないという現実があります。

勝間 それは大企業に行きたいからであって、通年採用しているような企業だったら、いつ海外へ行ってもいいわけですよ。既に日本企業は、中国や韓国などアジアの学生をどんどん雇用しています。

楠見 日本人の学生と中国、韓国の学生では、平均的には外国語運用能力は彼らのほうが優れていることが一因ではないかと思われれます。また、国際化への対応は、外国語が話せることだけではなくて、やはり異文化体験をして、異文化コミュニケーションができることだと思っています。

勝間 私も中学生時代に1カ月間ほど、カリフォルニアでホームステイをしたことが頭に残っていますね。娘にもなるべく行かせるようにしています。

楠見 学生時代の体験ということでは、特に私は理系なので、4年生のときに研究室で同じ釜の飯を食って、徹夜もして、卒業研究に没頭することによって伸びてくる学生に多く接しています。就職の際、学生のそういう面を見てほしいというのが偽

「リスクを取って失敗しろ」ということですね。みんな失敗しながらいかないのですが、迷ったときにはリスクが大きいほうを選ぶ、考えている暇があったらやってみるといふふうになるべく経験をたくさん積んでください。

らざる気持ちです。

勝間 採用側も成長力を見てほしい。そこそこ無難な学生ばかりではなく、多少リスクがあっても伸びそうな人、見どころのある人を探してほしいですね。

実際に、いろんな企業の社長さんがおっしゃるのは、格好をつけるなどということです。面接の際には、当たり障りのないことばかり言うのではなく、素顔の自分で、自分の体験や資質を話して勝負してほしい。こいつは面白そうだなとか、気概があるなどと思えば採ると。書類の書き方や面接の受け方ばかり訓練するのはやめてほしいとおっしゃっています。

楠見 たぶん人事担当者から見たら、これはマニュアル通りやっているなど、すぐ分かるのでしょうか。

教育の面でも、キャリアにつながる授業を拡充しているところですよ。文系の学生にも数学的な素養や数理処理的なスキルは要るだろうし、理系の学生にも人文・社会科学の科目がもっと必要です。



楠見 晴重 (くすみ はるしげ)
1953年大阪府生まれ。78年関西大学工学部土木工学科卒業、81年同大学院工学研究科博士課程後期課程中途退学。82年関西大学工学部助手。90～91年英国 Imperial College 留学。関西大学専任講師、助教授を経て、02年教授。07年環境都市工学部教授となり、同年4月から学部長に。09年関西大学学長に就任。文部科学省大学設置・学校法人審議会委員、社団法人日本私立大学連盟常務理事、財団法人大学基準協会理事、土木学会フェロー会員。主な共編著書「地環境情報学」、「アジア古都物語 京都一千年の水脈」ほか。

◆「1人当たり・1時間当たりのGDP」を基準に

楠見 関西大学は昔と異なり、女子学生は約40%を占めています。学科によっては70%以上のところもあります。勝間さんは、内閣府の男女共同参画会議のメンバーで、ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)に関しても意見を述べてこられました。

勝間 ワーク・ライフ・バランスとは、要は生産性の向上なのです。仕事の生産性が低いとプライベートの時間を侵食してしまうので、生産性を高くしてワークとライフをバランスさせる。その結果、ますます生産性が向上するというのが基本的なロジックです。だから、生産性が低いまま労働時間を短縮するということは、単なる収入減ですからあり得ないんですよ。

仕事の仕方を見直し、改善を重ねて、価値ある仕事は何なのか、無駄な仕事は何なのかを仕分けして、無駄な仕事を極力しないようにして、その分を自分の生活や将来に投資しようというのが本来の発想なのです。今回の節電対策で、生産性がずいぶん上がったみたいです。実際にやればできるのです。

女性の進出と1時間当たりのGDP(国内総生産)は相関関係が高く、1時間当たりのGDPが低い国は女性進出ができていないのです。なぜかという、長時間労働と育児・家事が両立しないからです。フランスでは平均すると1年間に日本人の3分の2ぐらいしか働いていない。ところが、1人当たりのGDPはほぼ同額です。つまり、その分だけ彼らは休暇を取ったり家族と一緒に食事をしたりして暮らしているのです。フランスのほうが女性は働きやすいわけです。これは北欧の場合も全く同じです。

私は、「1人当たり・1時間当たりのGDP」を政策目標に取り入れることを提案しています。現在、日本は39ドルですが、欧米各国並みの50ドルを目標にするのです。単純にGDPを増やすだけでは達成は難しく、GDPを増やしつつ、労働時間を減らしていかないとできません。この指標は、国全体の生産性・競争力を高めるためにたいへん重要な数値です。なぜなら、ワーク・ライフ・バランスの充実度が、人材開発の充実度に関係してくるからです。

◆普段の快適な生活よりも一回り背伸びして遊ぶ

楠見 勝間さんのように新しい発想で幅広い仕事をするためには、学生時代にどのような訓練をしておけばよいでしょうか。最後に、学生たちへのアドバイスをお願いします。

勝間 自分から好奇心をもって遊んだり学んだりすることが一番だと思います。私は年間100冊以上の本を読み、映画も月に10～20本見えています。旅行も大好きで、よく国内外に出掛けている。

さらにいえば、「リスクを取って失敗しろ」ということですね。みんな失敗しながらいかないのですが、迷ったときにはリスクが大きいほうを選ぶ、考えている暇があったらやってみるといふふうになるべく経験をたくさん積んでください。学生時代の失敗なんて、最悪でもせいぜい留年するぐらいでしょう。自分の普段の快適な生活よりも、一回り背伸びして遊んでほしいと思います。

それから、何か運動をしたほうがいいですね。企業の社長さん方は、たいてい何かの運動をなさっています。私の印象では、身体感覚みたいなものが経営に必須なんだろうなという気がします。

楠見 本日は若い人たちの参考になるお話をしていただきました。どうもありがとうございました。

外国語学部1期生の 留学体験

スタディ・アブロード・プログラムで
カンザス大学に留学

●外国語学部3年次生
有吉 俊さん

充実した留学生活は、その後のキャリアに大きな影響を与える。2009年に関西大学11番目の学部として開設された外国語学部では、2年次に提携大学で長期間の留学生活を送るスタディ・アブロード・プログラムを実施している。第1期生の有吉俊さんは、2010年3月から12月まで、アメリカのカンザス大学に留学した。

「カンザス大学へ行った当初は、日本人同士で行動することが多く、長期の修学旅行みたいでした(笑)。カンザス大学はバスケットボールが伝統的に強くて、環境や設備は抜群。キャンパスにはコートが6面あり、学生はいつでも自由に使えます。最初のころは勉強もきつくなかったので、授業の合間や夜によくバスケットをしました。僕は関大のバスケットボール・サークルに入っていたこともあり、アメリカ人とも一緒にプレーしましたが、体の大きさとパワーに圧倒されるばかりでした」

スタディ・アブロード・プログラムが初めての海外体験という学生もいるが、有吉さんは高校1年生の時にオーストラリアで20日間、ホームステイをして英語を学んだ経験がある。有吉さんが関西大学外国語学部を選んだ理由の一つは、全員必修の留学プログラムがあり、留学中の単位が卒業所要単位に含まれることだった。

カンザス大学では、留学生はま

有吉 俊—ありよし すぐる
■1990(平成2)年、大阪府生まれ。大阪府立住吉高校卒業。外国語学部3年次生。2010年3月から12月まで、スタディ・アブロード・プログラムでアメリカのカンザス大学に留学。



LEADERS NOW!



ず英語のスキルを習得するコース(リーディング・ライティング、スピーキング・リスニング、文法)に所属し、テストを受けてパスすれば大学の正規の授業を受講できる。有吉さんは比較的早くスキル系科目のテストに合格し、夏学期(6月~7月)には、子どもの発達と行動、英語のライティングの2科目を受講した。秋学期(8月~12月)には、社会学、心理学、言語学、教育学分野の4クラスでアメリカ人学生と一緒に学んだ。

「夏学期の授業がいちばんしんどかったですね。20人ぐらいの少人数で、それまでの授業とはレベルが違い、最初はほとんど理解できませんでした。でも、前もって教科書をしっかり読んで授業に出れば、先生の話が分かってきます。それに気づいて、ひたすら教科書を読みました」

有吉さんの寮のルームメイトは、「日本語べらべら」のアメリカ人だった。今は東京で留学中。翻訳や通訳の仕事を目指しているという。「向こうの学生はしっかり自立している感じがしました。ホームパーティー好きなのにも驚きました。ほとんど毎週末、どこかでホームパーティーが開かれていて、よく誘われます。そこで友達ができますし、日本語を学んでいる人と、お互いに分からないところを教え合ったりもできます。これから留学する人は、ぜひ自分から外国人の中に入っていきようしてください。みんなフレンドリーなので、無視されたりすることはありませんから」

有吉さんは帰国後、「中学か高校の英語の教員になろう」と決めた。「留学生仲間の中国人も韓国人も、英語の発音や話すことに関してはレベルが高かった。今までとは違う授業ができる教員になって、外国人と対等にしゃべれる生徒を育てたい。そのためにも、大学院で英語教育の理論をしっかり学びたい」

有吉さんは現在、4年次を飛び越して外国語教育学研究科の大学院に進む「飛び級入試」を受けるつもりで勉強している。



思いつきを実現したいという“想い”

「仕事も就職活動も『道』。人生を高める修業です」

●株式会社リクルート 進学カンパニー
広報企画統括部 専門学校広報推進部
企画開発グループ マーケティングディレクター
村田 陽一さん —社会学部 1997年卒業—

村田陽一さんは、関西大学社会学部産業心理学科の林英夫教授(退職)のゼミでマーケティングリサーチを学んだ。アンケートやインタビューによる調査方法を、他の人の卒業論文も手伝うくらい力を入れて勉強したそうだ。それが今の仕事にそのまま生きている。

関大一高から社会学部に進んだ村田さんは、友人たちとサバイバル研究会というサークルを立ち上げた。サバイバルゲームをするわけではなく、「大学生活を楽しく生き残っていきましょう」という気軽な乗りで、みんなでキャンプに行ったりして学生生活を謳歌した。

「僕は思いつき大好き人間なんです。あれがしたい、これがしたいと、思いつくとすぐ人に話してしまいます。『妄想すぎ!』と突っ込まれることがあっても『想い』を込めると賛同してくれる人が集まって本当に実現してしまうことも度々です」

4年前、村田さんが「関西支社の支社歌を作ろう!」と呼びかけたら、部署を超えて音楽好きの仲間13人が集まった。得意先でもあり関西大学の先輩でもある音楽系専門学校の理事長の助力もあって、村田さんが口ずさんだ鼻歌のメロディは、見事に編曲され、業界最先端のスタジオで録音、完成した。



「支社歌『なにわのわ』の発表ライブは盛り上がりましたよ。歌で部署間の垣根をなくし、人の関係を密にしたいという野望に向けて、大きく前進できました(笑)」

もっとも、これには後日談がある。配布用にCDを100枚ほど用意し、社内報で欲しい人を募集したところ、無料にもかかわらず大量に余ったというオチがついてしまった。

村田さんは入社以来、専門学校の学生募集にかかわってきた。営業を始めて7年目のころ「学生募集をお手伝いしている専門学校様へ、高校生からのお問い合わせをもっともっと増やして

村田 陽一—むらた よういち
■1974(昭和49)年、兵庫県生まれ。97年関西大学社会学部産業心理学科卒業。株式会社リクルート入社。進学カンパニーで専門学校への提案営業、企画を担当。趣味はバンド活動。好きな言葉は「おもしろきこともなき世をおもしろく」(高杉晋作)。



喜んでいただきたい」と、営業であるにもかかわらず、情報誌の企画改編提案を提出した。

従来、大量の進学情報資料が丈夫なバンドで十字に固く梱包されて、高校生の家にドサッと届いた。これでは誰も開けたいとは思わないだろう。開けなくなる工夫が必要だ。はさみやカッターなしに取り出せるようにしたり、中に何が入っているかを一目瞭然にしたり……。同僚とアイデアを出し合い、営業活動が終わってからオフィスで夜遅くまで企画書を書いた。

「実現したら絶対に何かが変わると信じてやりました。パッケージの仕様を大幅に変更したことで制作コストは上がりましたが、資料請求の数もぐんと跳ね上がり、クライアントにも満足していただけました。思いつきを形にしていく充足感も味わいましたし、それを実現したいという想いを持つことが大事だと確信しました」

仕事上の課題や宿題を一つずつこなしながら、理事長をはじめとする学校側の信頼を得た村田さんは、創立式典のプロデュースを担い、さらに学校のブランディングの企画を進めるようになった。単なる請負の仕事ではなく、「お客様と一緒に何かやっていける、伴走者のような関係性になってきたことは仕事の醍醐味です」と言う。

これから就職する、あるいは就職活動をする学生たちに、先輩からアドバイスを—。

「必ずしも目標を持たなくても、目の前の仕事、やるべきことにちゃんと対処して成し遂げることで次のステージに立つ権利、いわば通行手形が与えられます。すべてをおろそかにしないことです。ですので日々起こる出来事に注意を払ってください。なにかを極めて人生を高めることを『道』であると僕は考えます。営業職は営業を通じて自分を高めることができます。これは『営業道』です。就職活動にも『就職道』があるのではないのでしょうか。就職活動がうまくいかないのは、だめだということではなくて、自分にまだ何か足りないことを教えてくれているのだと思うのです。就職活動を通じて人生の勉強、修業をさせてもらっていると考えると頑張ってください。かならず道は拓ける……拓けるというよりはみなさんの歩みが『道』になるんです」

■研究最前線

キャリア教育・支援の実践と研究

キャリア教育の効果を測定・評価する

個性性を重視し、「生き方としてのキャリア」を追究

◎社会学部

川崎 友嗣 教授

キャリア教育の対象は、大学生はもちろん生徒・児童にまで広がってきている。その効果の検証・評価には、各学校の目的に応じた効果測定の測度が求められる。社会学部の川崎友嗣教授は、キャリア支援にかかわりながら、その効果測定法を追究している。それは実践に役立てるための研究、実践と融合した研究である。



CAPシステム メインメニュー画面

■CAPシステムの充実したコンテンツ

関西大学の学生は、将来の働き方・生き方について考えることをサポートするCAPシステム(Computer Assisted Career Planning System)を利用することができる。キャリアセンターのKICSS(関西大学インターネットキャリア支援システム)からアクセスすれば、コース、適性テスト、ワークなどのメニューが出てくる。

CAPシステムには6種類の適性テストと42種類のワークがあり、これらを組み合わせたコースが用意されている。テストの結果は、グラフとメッセージで分かりやすく表示される。ワークは、「自分を知る」「仕事を知る」「将来を考える」「自分を高める」「その他」の5つに分けられ、自己分析ツールや職業・業界研究ツールとしても活用できる。

コースは、「自己理解コース」「仕事理解コース」「適職探しコース」「将来設計コース」「お悩み解決コース」の5つに分かれた23種類が用意されている。例えば、「自分に向いている仕事に分から

ない」「どこを自己PRすればよいか知りたい」「自分についてじっくり考えたい」「将来のライフスタイルについて考えたい」など。

このCAPシステムを開発したのが、キャリアデザイン担当主事を務める川崎友嗣教授だ。川崎教授の主な研究テーマは、生涯にわたるキャリア発達とその支援。若年者のキャリア支援や自立の問題から退職者の問題まで、幅広く「生き方としてのキャリア」という視点から、実践的な研究を続けている。

■独自に開発された関大生のためのシステム

—2011年4月から運用されているCAPシステムの開発について。

現在、早期離職やフリーターの問題など、学校から職業の世界への移行、いわゆる“school-to-work”がスムーズにいかないことに伴う問題がいろいろ指摘されています。本学では各学部の正課教育とキャリアセンターのサポートを連携させ、学生一人ひとりのキャリア支援を展開しています。

学生は自分自身と社会を理解し、さまざまな気づきを得て、将来の働き方・生き方を考えるとともに、社会で必要な力を身につけていきます。そのようなキャリア形成を支援するため、政府の教育研究高度化のための支援体制整備事業として助成を受け、キャリアセンターのチームでCAPシステムを開発しました。

—CAPシステムの特徴は？

キャリア教育やキャリア支援では、それぞれの学生・生徒・児童の特徴に合わせた働きかけが必要です。CAPシステムの大きな特徴は、関大生のためのシステムとして、関大生の特徴に合わせて独自に開発したところ。適性テストや豊富なワークの中身が、関大生の普通の学生生活に基づいて答えやすいように作られています。

また、職業や労働だけでなく、生き方としてのキャリアという視点から適性テストやワークを構成していることも特徴です。

■キャリア教育プログラムの効果を検証する

—キャリア教育科目とインターンシップの効果測定の結果は？

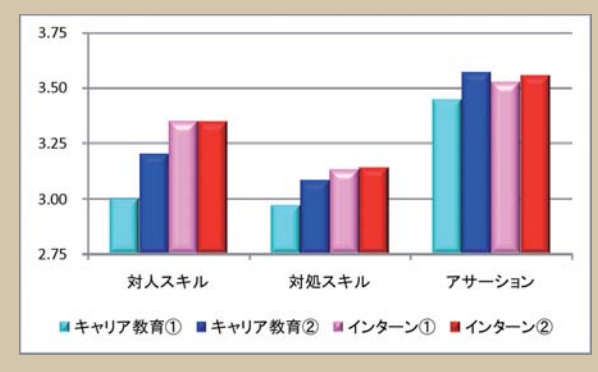
キャリア教育が機能しているかどうか、どんな効果を持つのかという評価をしようとすれば、目的に合わせて測定する物差しを考える必要があります。私たちは現代GPの取り組みの一環として、可能な限り定量的に効果を検証するため、平成20年度のキャリア教育科目「キャリアデザインⅠ・Ⅲ」の受講者とインターンシップ実習生を対象に、本取り組みの目的と関連の深い尺度項目を測度として用いて、事前・事後計画に基づく効果測定を行いました。

本取り組みの目的は、学生の意識改革と職業観の醸成をはかったうえで、社会的場面を経験する機会を提供し、school-to-workをスムーズにする点にあります。第1回測定の対象者は643名、第2回は672名であり、このうちマッチングが可能な491名のデータを用いて分析しました。

キャリア教育科目受講生では、働く意欲(探索志向)、時間的展望(目標指向性、現在の充実感)、社会的・対人的スキル(対人スキル、対処スキル、アサーション)^{*}「相手も自分も傷つけない上手な自



図1：社会的・対人的スキル尺度得点の変化(対象別)



己主張)の)の得点が有意に増加し、インターンシップ実習生の場合は、働く意欲(探索志向、対人志向)、時間的展望(現在の充実感、過去受容)の得点が有意に増加しており、取り組みの効果が確認されました。

—なぜ社会的・対人的スキルに関して、インターンシップ・プログラムの効果が出なかったのですか。

図1から分かるように、インターンシップ実習生はキャリア教育科目受講生に比べて、事前測定の段階から社会的・対人的スキルが高く、アサーションを除けば、キャリア教育科目受講生の事後測定の値を最初から上回っており、さらなる向上が難しかった可能性が考えられます。いわば、天井効果ともいえます。

これに対して、キャリア教育科目受講生では、確かに社会的・対人的スキルが向上していますが、アサーションを除き、事後測定の値でも、まだインターンシップ実習生の事前測定の値には達していません。アサーション・トレーニングの効果は顕著であるといえますが、授業における働きかけだけでなく、日常生活におけるさまざまな体験が社会的・対人的スキルを高めるものと考えられます。

■小中学校におけるキャリア教育の効果測定

—東大阪市の小中学校で継続的に行われているキャリア教育の効果測定について。

東大阪市の意岐部中学校区(意岐部中学校、意岐部小学校、意岐部東小学校)では、平成19年度から文部科学省の研究開発学校の指定を受け、「夢づくり科」を新設して小中9年間にわたるキャ

リア教育を展開しています。「自分の夢・生き方を創りつづける子」を中学校区共通のめざす子ども像として策定し、キャリア教育の視点を「3領域(感性・態度・能力)10視点」に整理しました。

私は、学校の取り組みが身につけているかどうかを測定する評価の部分、物差しづくりにかかわっています。

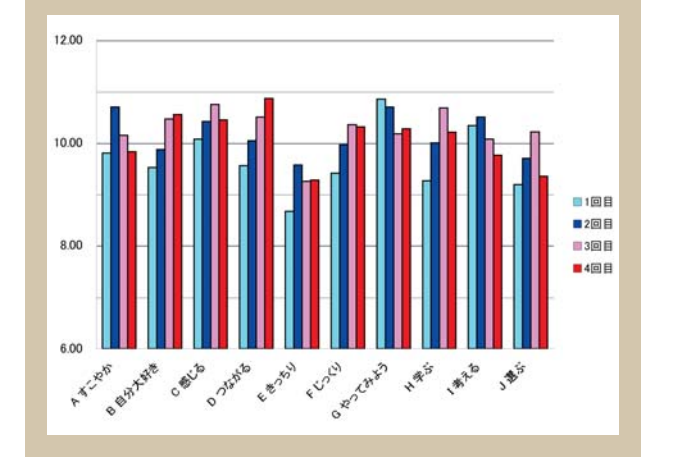
—実際にどのような変化が見られますか。

例えば、図2の意岐部東小学校6年生の効果測定結果の1回目と4回目を比較すると、最終的に得点が増加した領域は「B自分大好き」「Dつながる」「Fじっくり」「H学ぶ」の4尺度であり、得点が有意に低下した領域は見当たりません。得点が伸びた2領域については、夢づくり科のテーマ「絆・仲間～あなたが励ましてくれるから～」の取り組みを進めていくなかで、特に子どもたちに感じとり、考えを深めてほしいと願う領域であり、その働きかけの効果が反映されたと思われる。

単に点が上がったからよいと言うわけではないのが、効果測定の難しいところです。子どもたちが自分でハードルを高くしたら、自己評価の点数が低くなります。数値が上がった下がったよりも、なぜこういう数値の変化が起きているのか、先生方と一緒に検討し、改善しつつ取り組み続けることが大事なのです。

また、学年やクラス全体の傾向を見ると同時に、一人ずつ経過を追って個別の傾向を見ている点も大きな特徴です。キャリア教育、キャリア支援では個性を重視し、一人ひとりに合わせた働きかけが求められます。

図2：意岐部東小学校(6年生)の効果測定結果



■研究最前線

アクティブスクリーンプラズマ窒化処理の研究

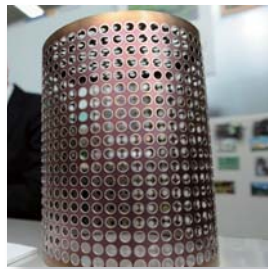
硬化層を均一に形成する
新プラズマ窒化技術

従来のプラズマ窒化の問題点を解決する表面改質処理を実現

◎化学生命工学部 化学・物質工学科

西本 明生 准教授

自動車部品をはじめ、輸送用機器、産業機械、金属金型、工具などには、多様な使用目的に応じて、硬度、耐摩耗性、耐熱性などを高めるための表面改質処理が施されている。化学生命工学部の西本明生准教授は、従来のプラズマ窒化の問題点を解決できるアクティブスクリーンプラズマ窒化処理技術を開発した。



西本准教授が開発したスクリーン▶

■優れた表面硬化法=プラズマ窒化法

化学生命工学部化学・物質工学科の機能材料研究室では、セラミックスと金属の接合など、接合技術の開発に取り組んでいる。また、新しい表面改質法による機能材の開発にも力を入れている。

表面改質処理といえば、メッキ、ほうろう、焼き入れなどが一般によく知られている。炭素をしみ込ませる浸炭、窒素化合物の硬化層を作る窒化、種々の皮膜を被覆・形成する溶射、アルマイトに代表される陽極酸化なども、成熟した技術である。

なかでも窒化処理法は、処理温度が450℃～600℃と比較的低温(浸炭は850℃～950℃)で、処理後に焼き入れ操作を必要としない。そのため、硬さや耐摩耗性を向上させながら、熱変形が少ない(寸法の誤差が少ない)ので、広く適用されている。

一般に窒化処理として、アンモニアガスの分解によって生じた窒素を拡散させて処理材に浸入させるガス窒化法、ナトリウムやカリウムのシアン化合物を用いる塩浴窒化法、窒素ガスを含む低真空中でグロー放電によって形成されたプラズマを利用するプラズマ窒化法が行われている。

特に、プラズマ窒化法は優れた表面硬化法であるが、工業的に普及していない。メリットと同時に、いくつかの問題点があるからだ。西本准教授はその問題を解決することのできる新プラズマ窒化技術を開発し、実用化しようとしている。

■プラズマ窒化法の長所と欠点

—プラズマ窒化法のメリットは？

プラズマ窒化法は、イオンの衝突エネルギーによって処理材



が加熱されるため、外部加熱装置が不要です。活性なプラズマ状態の窒素原子やイオンを利用するため、エネルギー消費量およびガス消費量が少なく、処理時間が短く、非常に経済的な処理法です。加えて、塩浴窒化法で使用するシアン化物のような有害物質を使用しないため、環境への負荷も少ないのです。

—それにもかかわらず、あまり普及しない理由は？

現在、工業的にはガス窒化法が広く行われています。従来のプラズマ窒化処理では、処理材をマイナス極として直流電圧を加えることにより、処理材表面でグロー放電を発生させてプラズマを形成するので、製品の形状や使用時にいくつかの制限があり、不均一な温度分布が生じて処理品の欠陥につながる危険性があります。

具体的には、①ちょっとしたゴミや堆積物があるとその部分に集中して放電が発生し、非常に温度が高くなって一部が溶融する(アーキング: Arcing)、②放電が側面と上面の角の部分に集中し、周辺部分に窒化のムラがリング状にできて改質層が不均一になる(エッジ効果: Edging effect)、③管材など材料の穴部で、穴の大きさが狭すぎると放電が中に入っていなくなり、また穴の大きさによって放電が集中し不均一な窒化層が形成される(ホローカソード効果: Hollow cathode effect)などの問題点があります。

■処理材表面ではなくスクリーンで放電

—プラズマ窒化処理の欠点を解消できるアクティブスクリーンプラズマ窒化処理とは？

結論から言うと、処理材の表面で放電が起こらないため、従来のプラズマ窒化の欠点である異常放電、エッジ効果などを回

避できるという特長があります。アクティブスクリーンプラズマ窒化法では、処理材表面ではなく、炉壁とスクリーンの間でグロー放電を発生させます。

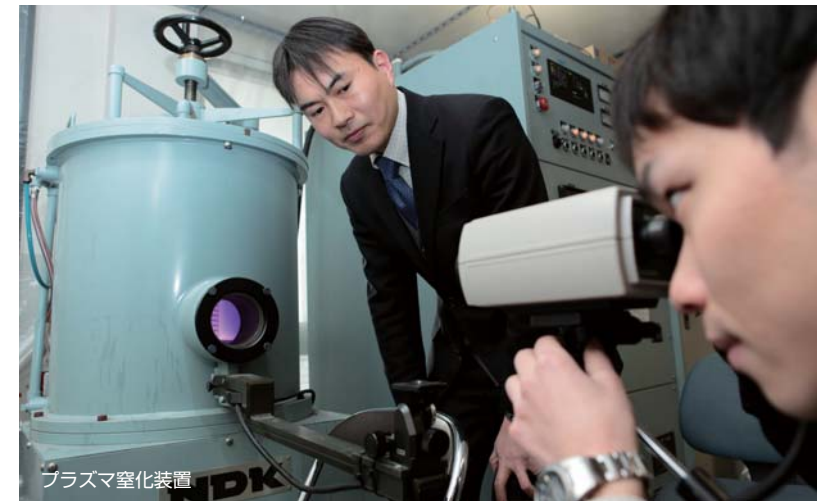
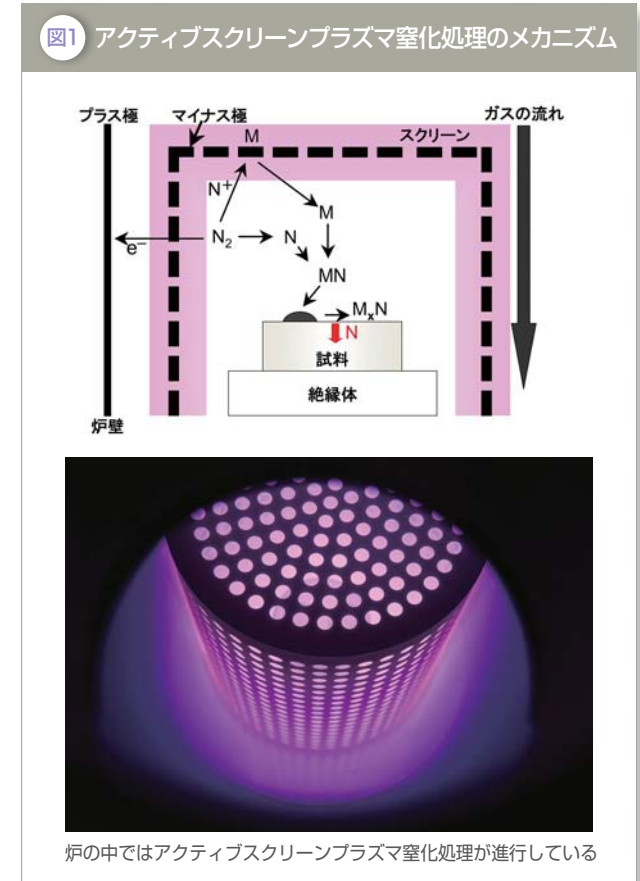
この方法は、処理材(試料)を絶縁し、その周りに穴をあけた籠状の金属板のスクリーンをマイナス極として設置します。ここに電圧を加えることで、処理材表面ではなくスクリーン表面で窒素分子、原子、イオン、電子に加え、スクリーンの構成物質およびその窒化物が混在したプラズマを形成します。そして、窒化物をガスの流れによって処理材表面に沈着させ、窒素を内部に拡散することで処理材を窒化します(図1)。

—実験を重ねた結果はいかがですか。

従来の直流プラズマ窒化(DCPN)処理とアクティブスクリーンプラズマ窒化(ASPEN)処理を比べてみました(図2)。

通常のDCPN処理(左側)では、試料の端部と中央部とで、窒化層の厚さの違いが見られました。これは端部へ放電が集中し改質層が不均一になるエッジ効果によるものです。一方、ASPEN処理(右側)では、エッジ効果が解消され、均一な外観を呈しています。

グラフは、直径方向に窒素の濃度を調べています。DCPN処理では端部の窒素濃度が高くなっていますが、ASPEN処理では窒化層が均一に形成され、全面的に同じような窒素濃度になっていることが分かります。



■既存のプラズマ窒化炉が使える新技術

—アクティブスクリーンプラズマ窒化処理は、世界や日本での程度行われているのですか。

1999年にルクセンブルクのプラズマメタル社がアメリカで特許を取り、専用の炉を市販しています。しかし、高価で大きかりな装置で、日本では使われていません。イギリスのバーミンガム大学が、この分野の研究を積極的に進めています。5年前に私はバーミンガム大学に1年間留学し、そこでアクティブスクリーンについても一緒に研究しました。

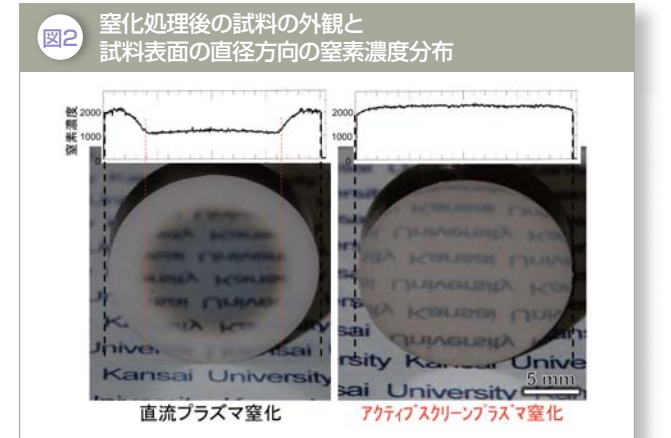
日本では当研究室以外では、この窒化処理方法を研究しているところはほとんどないと言ってよいでしょう。私たちの方法では、日本で使われている普通のプラズマ窒化炉に籠状のスクリーンを入れるだけで、アクティブスクリーンプラズマ窒化処理が可能になります。既存のプラズマ窒化炉を使用できるので、新たな設備投資を必要としません。

また、セラミックスやプラスチックなど電気伝導性の低い材料や絶縁体は、従来のプラズマ窒化の対象外でしたが、スクリーンで放電が起きるアクティブスクリーンを用いることで窒化することができます。

—研究開発で難しかった点、そして今後の課題は？

スクリーンの形や穴の大きさは、いろいろ試行錯誤しました。当初はなかなかうまくいかず、何度もやり直しました。

課題としては、工業的規模の大型炉に大きなスクリーンを導入し、同様の結果が得られるかどうかを調査する必要があります。



Topics ■トピックス [学内情報]

次代を担う若者を全面的にバックアップ！

関西大学のキャリア形成・就職活動支援体制

昨年の倫理憲章の改定により、企業の採用情報公開が例年より2ヵ月遅れの12月開始となった。ところが、採用選考の開始は従来通りの4月以降であり、それに先立つエントリーシートなど応募書類の提出も例年通りのスケジュールで進められており、学生にとっては具体的な応募先を検討する時間が短縮化されている。そのような状況においても学生一人ひとりが将来にしっかりとした目標をもって挑むために、関西大学キャリアセンターではさまざまな支援を展開している。

◎全キャンパスでの展開

キャリアセンターでは、3・4年次生の就職指導にとどまらず、1年次生から段階的に自分の将来を描き、自ら進路を導き出すために、千里山キャンパスを拠点に高槻・高槻ミューズ・堺の各キャンパスに分室を設けて、キャリアプランニングセミナーなど多彩なサポートプログラムを展開している。また、理工系学部ではキャリアセンター理工系事務室がその役割を担っている。

◎個別対応のキャリアカウンセリング



関西大学ではキャリアセンター内にキャリアデザインルームを設けて専門カウンセラーを配置し、学生一人ひとりのキャリアカウンセリングを展開しており、既に10年の歴史を迎えようとしている。現在では、さらにキャリアセンター事務室にも就職専門相談員を配置して、日常的な就職活動のさまざまな相談に随時応じている。

◎充実したインターンシップ制度

学生が段階的に進路を探索するうえで非常に有効な取り組みがインターンシップである。特にキャリアセンターが取り組むビジネス・インターンシップでは、例年270を超える企業・団体等で約500名の学生が就業体験を行っている。国内はもとよりグローバル人材養成に積極的に取り組むために、米国のロサンゼルスやサンフランシスコ、ミズーリ州での国際インターンシップも実施している。

◎多彩な就職支援プログラム

初歩的な就職活動に関する心構えから、具体的な業界・企業研究の方法に至るまで、多彩なプログラムを3年次生以降に提供している。特にその時の経済環境や社会状況の分析をもとにした業界研究や企業研究について指南する就職対策講座のシリーズ企画は、学生に絶大な支持を得ている。もちろん、就職模擬面接や各種就職模擬試験も実施している。



◎業界研究会

具体的な応募先の企業を選ぶ前に、現代の産業社会構造を知り、各産業界がどのような機能と役割を担って、未来に向けて何に挑戦しようとしているかを理解することは、進路選択において重要である。関西大学では、倫理憲章の趣旨に沿って、採用情報の提供とは一切切り離れた内容で、キャリア教育の一環として全学年の学生を対象に、各産業の代表企業の協力を仰いで秋に実施している。

◎学内企業研究会・合同企業研究会

企業の採用情報公開解禁とともに、例年学内に約150社のリーディングカンパニーを招いて各社の業務内容や採用情報、企業としてのメッセージ等を学生に講演していただく学内企業研究会を開催している。さらに「関大生を求める企業」と「優良企業への就職を求める学生」の出会いの場として、ブース形式での合同企業研究会を2月に大規模に開催し、その後も5月から11月にかけて時宜に応じて延べ1,000社を超える企業の協力を得て開催している。



◎公務員等志望者支援行事

公務員を志望している学生に対して、10月に「公務員ガイド」を開催。11月には人事院担当者による「国家公務員採用試験説明会」、合格者による「公務員試験合格体験報告会」を開催している。さらに12月には実際に公務員として活躍中の卒業生を招いての「仕事研究セミナー（公務員編）」をはじめ各団体等による「公務員業務説明会」、各省庁担当者による「人事院主催・国家公務員関連イベント」も学内で開催して公務員志望者の支援を展開している。

◎KICSS(関西大学インターネットキャリア支援システム)

KICSSは、関大生限定の就職・進路支援サイト。企業から関大生への求人が検索できるほか、OB・OG情報、各種セミナー案内、インターンシップ、公務員試験などに関する多種多様な情報を発信している。7・8ページで紹介されている関大生に特化した職業適性・興味検査の「CAPシステム」ともリンクしており、関大生にとっての就職活動必須ツールだ。

昭和基地からライブで「南極授業」

関大一中・東野教諭が南極の驚異と魅力を伝える



第53次日本南極地域観測隊夏隊に同行した関西大学第一中学校の東野智瑞子教諭が、千里山キャンパスで1月26日、28日に、南極昭和基地から衛星放送によるライブ授業を行った。リアルタイムの映像を伴った授業に参加したのは、関西大学第一中学校、関西大学中等部、関西大学北陽中学校の生徒たち。その模様を紹介しよう。



◀東野智瑞子教諭 (南極昭和基地前で撮影)

*リアルタイムで南極を感じる授業

関西大学第一中学校で理科を教えている東野智瑞子教諭は、第53次日本南極地域観測隊夏隊の同行者として、2011年11月25日に日本を出発した。

今回の「南極授業」は、国立極地研究所が文部科学省と連携して実施する教員南極派遣プログラムに、南極の温暖化に興味を持っていた東野教諭が応募し、採用されたことにより実現した。授業は、南極昭和基地と関西大学BIGホール100とを結ぶ衛星回線のTV会議システムを利用して行われた。

1月26日には、関西大学第一中学校の生徒約700人が参加。1月28日には、関西大学中等部、関西大学北陽中学校、および吹田市内の中学校の生徒、約500人が参加した。

26日の授業は、「今日は演出かというぐらい、めっちゃ南極っぽい天気です」と、強い風の中に立つ東野先生の姿と声で始まった。東野先生が戸外から管理棟の中に移動する間、日本を出発して南極に着くまでの様子を伝える映像が流れた。

授業では、昭和基地と関大一中との位置関係から、南極が夜中まで明るいのはなぜかを解説。続いて、昭和基地での一日の生活、設営作業、オゾンや大気中の成分、重力などの観測について説明。圧巻は、東野先生が同行したペンギン調査と湖沼調査。最後に、生徒たちからの質問にも答え、未知の世界である南極の驚異と魅力が十分伝わる授業となった。



リアルタイムで実施された「南極授業」

*ペンギン調査・湖沼調査に同行

ペンギン調査のシーンでは、生徒たちから「うわー、すごい」「かわいい」という声が上がった。ペンギンは小石を積み上げて巣を作り、雛は口移して餌をもらう。卵や雛が巣からこぼれ落ちると、天敵のトウカモ(ナンキョクオオトウゾクカモメ)にやられてしまう。

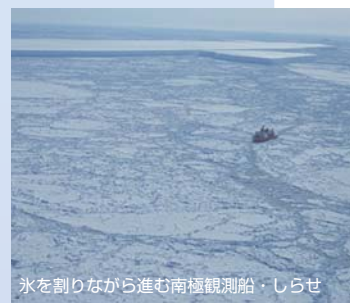
「雛が奪われていくのを見ると、ひどいなあという感じがするけれど、トウカモにとっても、餌を食べられるかどうか、生きるか死ぬかの瀬戸際なので、自然の厳しさを感じます」と東野先生。

湖沼調査では、南極に生きる生命と悠久の時間について語った。

「湖のほとりにアザラシの赤ちゃんと思われるミイラが横たわっていて、周りを優しく緑色のコケたちが取り囲んでいる様子がすごくきれいで印象的でした。南極では菌が繁殖しにくいので腐敗が進みません。アザラシからの命をちゃんと受け取って生きているコケたちを見ていると、こうやって命がバトンタッチされていくのかなあということを感じました。アザラシがいたということはこの辺は海だったのかなと考えたり、このコケたちがいつ生え出したのかと考えていると、人間の生きているちっぽけなスケールでは計れないくらい、すごいスケールの大きさを感じました」

東野先生の親しみやすい授業を受けて、生徒たちは南極の厳しい環境と生物の暮らしに思いを巡らせたようだ。

「この時間では言い尽くせないほどたくさんさんのことがあったので、あとは日本に帰ってから伝えていきたいと思っています」東野先生は、3月19日に帰国する予定だ。



氷を割りながら進む南極観測船・しらせ

高槻ミューズ・
堺キャンパスで
「関大防災DAY2011」

巨大地震に伴う火災、津波も想定して避難訓練 ～広がれ！みんなの安全・安心～

関西大学では全学を挙げて、防災への取り組みを強化している。2011年10月4日の千里山キャンパスでの「関大防災DAY2011」に続き、11月9日に高槻ミューズキャンパスで「関大ミューズ防災DAY2011」を、11月29日に堺キャンパスで「関大堺キャンパス防災DAY2011」を実施した。いずれも「広がれ！みんなの安全・安心」を掲げて、大規模な地震避難訓練を行った。

関大ミューズ防災DAY2011



高槻ミューズキャンパスで11月9日、学生・生徒・児童と教職員および児童図書館などを利用中の一般市民を対象にした地震避難訓練を実施した。

約1,000人が参加した訓練では、授業中に高槻有馬構造線活断層を震源地とするマグニチュード7.3の巨大地震が発生し、西館8階のリフレッシュコーナーから出火したと想定。初期消火、避難誘導、安否確認などの訓練を行ったほか、高槻市消防本部によるタンク車を用いた



10階からはしご車で救出される訓練を受ける学生

放水訓練、はしご車による救出訓練なども行い、高槻市と連携して地震発生時の避難体制をあらためて確認した。

初等部、中等部、高等部と、日本初の社会安全学部および大学院社会安全研究科を有する高槻ミューズキャンパスは、高槻市が提唱する「安全・安心のまちづくり」に寄与するため、防災機能を備えるとともに、災害時の緊急避難場所としての役割を担っている。

関大堺キャンパス防災DAY2011



堺キャンパスで11月29日、学生・教職員・地域住民ら約800人が参加し、同キャンパスで初めての地震避難訓練を実施した。

授業中に和歌山県沖を震源地とするマグニチュード9.0の巨大地震が発生、大阪府沿岸に大津波警報が発令され、100分後に最大6メートルの津波が到達する可能性がある



炊き出し訓練の様子

があると想定。堺キャンパスが地域の避難所に指定されていることから、本訓練は堺市との地域連携事業の一環として、堺市危機管理室や地域の自治消防組織などと協力して行われ、地域住民や堺北幼稚園の園児たちも参加した。津波避難訓練での高所への移動では、消防隊員や本学職員の誘導のもと、学生が幼稚園児らと一緒に避難するなど、現実起こり得る状況を想定して行われた。

また、バケツリレーによる消火訓練、煙体験、救急体験、炊き出し訓練など、さまざまな体験イベントもあわせて行われた。

◎「大阪マラソン共同調査研究」 杉本厚夫・人間健康学部教授らが調査・分析

「なぜ市民マラソンか？」 人気を裏づけ、意義と効果を検証する

10月30日に開催された「第1回大阪マラソン」には、フルマラソン27,161人、チャレンジャー(8.8km)2,002人のランナーが参加し、約1万人ものボランティアが活動した。なぜ、これほどまでに多くの人が市民マラソンにかかわろうとするのだろうか。また、大会前後で大阪に対する意識の変化は？——関西大学では人間健康学部の杉本厚夫教授を中心に、読売新聞社と共同で、大阪マラソンに関する詳細な意識調査を実施した。



■大規模マラソン大会初の本格的調査

「第1回大阪マラソン」(大阪府・大阪市・一般財団法人大阪陸上競技協会主催)には、関西大学も協賛し、給水ボランティアや語学ボランティアとして多数の学生が参加し、応援団や同好会も応援イベントで盛り上げた。このような大規模マラソン大会での本格的な調査は初めての試みである。



今回は《調査概要》にあるとおり、参加ランナー、ボランティア、観客を対象にアンケート調査を行ったが、回答率が非常に高かった。信頼性の高いデータから、マラソン開催の意義を検証し、地域に及ぼす効果を知ることができる。関西大学と読売新聞社による「大阪マラソン共同調査研究」の結果について、本誌では分析概要をお伝えする。

■参加ランナーについて

「観客の応援がうれしかった」「ボランティアの対応がよかった」と感じている人が非常に多く、ランナーを支えるボランティアや観客との一体感を得ることができた。また、「普段走れないところを走れてよかった」と思っている人も多く、非日常性を担保することは、市民マラソンを開催するときの重要な要素になっていると言える。とりわけ、都市型のマラソンでは不可欠の要素と考えられる。

一方、新しい仲間ができたという人は期待に反して少なく、ランナー同士やボランティアとの交流の機会が少ないことなどがうかがえる。市民マラソンに期待することの一つでもあるので、今後の対応が望まれる。その他、チャリティの趣旨がよく分かったという人が半分にも満たないなど、今後の検討課題も明確になった。

■ボランティアについて

ボランティア活動への参加経験が少ない人が多く、大阪マラソンで初めてボランティアをした人は、他のボランティアにも興味を示すようになった。

思い出や記念のために、あるいは自分自身を高めるためという個人的な理由によってボランティアをする傾向が強く、また、人の世話をするためにという社会的な目的でボランティアをしている人も多くいて、それらの目的は大阪マラソンのボランティアをすることによって達成することができたと言える。

一方、ランナーと同様、人との出会いを求めてボランティアをしている人にとっては、今回の大阪マラソンでは、その機会が少なかったと言える。さらに、趣味や特技を活かせることができなかつたと思っている人もいて、活動内容とボランティアの適性のマッチングが望まれる。

■観客について

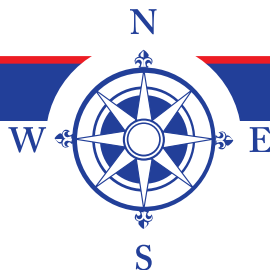
観客が応援に来た理由として主なものは、「応援を楽しみたいから」、「思い出や記念になるから」、「大阪を盛り上げたいから」であった。

このことから、多くの観客が「観て」「応援して」「共感」といった純粋な目的で参加し、ランナーへの応援を楽しんでいたことがうかがわれ、地域コミュニティの活性化、郷土愛の喚起という大会目的が観客の側でも受け入れられていたことが分かる。

調査概要

<p>●参加ランナー調査</p> <p>【方法】Web調査</p> <p>【時期】(大会前調査)7月27日～9月14日 (大会後調査)11月1日～11月22日</p> <p>【サンプル数】大会前調査4811人、大会後調査7006人</p>	<p>●ボランティア調査</p> <p>【方法】大会前調査集合調査法、大会後調査郵送(ファックスを含む)とWeb調査</p> <p>【時期】(大会前調査)7月23日、8月27・28日、9月17・18・25日、10月1・2・28・29日 (大会後調査)11月1日～11月22日</p> <p>【サンプル数】事前調査1045人、事後調査1084人</p>	<p>●観客調査</p> <p>【方法】面接調査法</p> <p>【時期】10月30日</p> <p>【サンプル数】467人</p>
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------

※本調査の報告書は、関西大学ウェブサイト(<http://www.kansai-u.ac.jp/global/contribution/marathon.html>)でご覧いただけます。



関西大学南千里国際プラザが竣工



阪急千里線「南千里」駅近くに開設される関西大学南千里国際プラザ

関西大学は新たな国際化構想の一環として、2012年4月に関西大学留学生別科を開設する。その教育施設と留学生寮が併設される関西大学南千里国際プラザが2月20日に竣工した。阪急千里線「南千里」駅から徒歩約5分、関西大学のメイン・キャンパスから自転車で約15分の便利なところに、留学生が勉学に専念できる環境が整った。

留学生別科では、ICT(情報通信技術)やe-ラーニングを授業内・授業外の学習に活用し、学生の日本語能力と情報活用能力を同時に養成する。そのため、教室棟は全館、また中庭や寮棟の共用部門にも無線LANを完備している。

大学トップマネジメントフォーラム2011開催



「大学トップマネジメントフォーラム2011 今こそ問われる大学の使命～変容する社会とこれからの人材育成～」(朝日新聞社主催)が2011年12月11日、品川インターシティホール(東京都港区)で開催され、楠見晴重学長がパネリストとして出席した。本学のほか、神奈川大学、中央大学、東京理科大学、東洋大学、法政大学、明治大学、早稲田大学の計8大学が参加した。

第1部では、グーグル日本法人前社長でアレックス株式会社代表取締役社長兼CEOの辻野晃一郎氏が基調講演。第2部では、朝日新聞社の山上浩二郎氏をコーディネーターにパネルディスカッション。楠見学長は日本初の社会安全学部の役割を述べ、アジアのハブ大学を目指し、「考動力」を身につけた学生を育てたいと語った。

「社会安全研究科博士課程後期課程」設置認可

関西大学大学院社会安全研究科博士課程後期課程の設置について、2011年10月24日、文部科学省から認可を受けた。同前期課程は2010年4月に、社会安全学部と同時に高槻ミュージックキャンパスに開設。東日本大震災は、巨大自然・社会災害における政府・自治体・企業の危機管理に資する人材の必要性を如実に示した。社会安全研究科は、安全な社会を実現するために複数の関連分野の学際融合研究を通して社会安全研究領域を創設し、防災・減災および事故防止に寄与できる実践力のある人材を養成することを目的としている。

馬術部の山田晃嗣さんが全日本障害馬術大会優勝

日本中央競馬会・馬事公苑で開催された第63回全日本障害馬術大会において、体育会馬術部の山田晃嗣さん(政策1)が2011年11月20日、全日本障害飛越選手権の部で優勝した。全日本障害馬術大会で学生が全国制覇を成し遂げたのは、大会の長い歴史の中で31年ぶり2人目の快挙とのこと。山田さんは高校1年生で大分国体・二段階障害飛越の少年の部で優勝、翌年の新潟国体・リレーの少年の部でも優勝。2007年から3年連続で全日本学生を制した関大のレベルの高さと、元五輪代表・若原尚総監督の指導力が決め手となって入学した山田さんは、頼もしいパートナーのカルピノZに感謝しつつ、今年のインカレ優勝を目指している。



写真提供：関大スポーツ編集局

関西大学中等部の宮原知子さんがフィギュアの全日本ジュニア選手権で総合優勝



関西大学中等部2年生でアイススケート部の宮原知子さんが、2011年11月26日・27日に青森県八戸市で開催された全日本フィギュアスケートジュニア選手権大会女子シングルで、SP・フリーともに1位で総合優勝を果たした。同大会で浅田真央選手が挙げた記録を超える172.17点の大会新記録で圧勝した。

また、12月24日・25日に大阪府門真市のみみはやドームで開催された第80回全日本フィギュアスケート選手権にも出場。SPでは15位と出遅れたが、フリーでは3回転ジャンプを次々に決め、出場者の中で最年少ながら、鈴木明子選手、浅田真央選手に次ぐ3位となり、総合では6位となった。その結果、2月末にベラルーシ・ミンスクで開催の世界ジュニア選手権日本代表に選出された。宮原さんは2014年ソチ五輪に出場できる一番下の世代の女子選手として注目されている。